

ごぶんしよう えきれい しょう げんだいごやく さいこうじ よしひろえんしゅうやく
御文章「疫癘の章」(現代語訳)(西光寺 吉弘円秀訳)

ちかごろ 近頃はとみにはやり病やまいといつて老いも若いもなく人々が亡なくなっていきます。けれども病やまいだからといって老いも若いもなく人々が亡なくなっていません。生まれたときから死しんでいかねばならないことは定さだまっているのです。そんなに深く驚おどろくことがおきているのではありません。とはいうものいま今のようなきに死しんでいけばどうしても病やまいで死しんだとしか思おもえてきません。無理むりからぬことなのです。

そうであるからこそ阿弥陀如来は凡夫ぼんぶ(私わたし)にむけて「世も末となり、善ぜんも悪あくもなく日暮ひぐらし追おわれるばかりで、幾重いくえにも罪つみを重ねかさているものであつても、私わたし(阿弥陀如来)を一いっしん心に頼たのもうというものを、かならずくい遂とげていく」と仰おっしゃってくださいなのです。ですから、自身じしんまた身近みぢかなものしが死しにいくときはナンマンガブ・ナンマンガブと極楽ごくらくに生まれていくのですと頂いただいて一向いっこういっしん一心いっしんナマンガブと露つゆちりほどの疑うたがいもなく念仏ねんぶつ申まうていくのです。このように心得こころえていけば、行住坐臥ぎょうじゅうざがいかなる時ときもナンマンガブ・ナンマンガブと称となえることは、阿弥陀如来あみだによらいのおすくいがいいつでもどこでもどんなときにもここに届とどいていることのかたじけなきに、自おのずとありがたさとうれしさを覚おぼえて、ただひたすらに御礼おんれいを申まうすばかりとなつていきましよう。これをそのままに仏恩報謝ぶつとんほうしゃの念仏ねんぶつと申まうされているのです。みなよくわかってくれましたな みなよくわかってくれますな